

田中康夫の

新ニッポン論



134

ヨコハマの活力を前に。

「立憲民主党・日本共産党・社会民主党+横浜港運協会」全面支援

で第33代横浜市長就任の医師免許を有さぬ「データサイエンティスト」とい「統計学者」が前回選

ている」と高言する11分間の街頭演説動画が存在します。

山口組三代目組長だった田岡一雄氏との、刎頸の交わりを「大好きですよ。心から尊敬しています。実の親子みたいにお付き合い

さしていただいてます」と2004年に神奈川県新聞社から上梓の自叙伝『ミナトのせがれ』で巧言。

来る8月18日には生誕95周年を迎える藤木幸夫翁は、敷地47ヘクタールの95%が市有地・3%が国有地・民有地は僅か2%の山下ふ頭を「俺のシマ」と力説。

藤木翁に加え長男の藤木幸太氏、腐る建築で耳目を集める隈研吾氏の親友デービッド・アトキンソン小西美術工芸社社長の計3名が「横浜山下ふ頭再開発検討委員会」委員に名前を連ね、委員長に当初就任の寺島実郎日本総合研究所長は「利益相反」振りに嫌気が差して程なく辞任。

驚く勿れ現市長が委員を選任した同委員会は「いつでも、どこでも、スマホでポチッと」「2000兆円を超える個人金融資産を動かす」「スポーツベッティングの実証実験」との事業提案書を審議。言わずもがな大谷翔平選手の通訊

を務めた水原一平受刑者が嵌まったスポーツ賭博に他なりません。が、「立憲野党勢力と連携して政治を変える」かながわ市民連合は「市民の声を聴き、施策に反映する基本姿勢を2期目も堅持する」現市長を「引き続き支持」と機関決定。他方で横浜市会に議席を有する自由民主党、公明党、国民民主党は「自主投票」の流れ。

世界的「保守化」の濁流が押し寄せる島国ニッポンに於ける「リベラル」の橋頭堡たる「朝日新聞」が「目立つ争点は見あたら

ない。大きな失点がない今の市長に勝てる候補はなかない」と昨年11月26日に、同じく「東京新聞」も「市政運営に大きな失点はなく、市長選はこの4年間の実績評価という色彩を帯びる」と今年6月6日に署名記事を出稿。

中央のみならず横浜に於いても「たしかな野党」を標榜していた日本共産党、従前から「たしかなゆ党」の立憲民主党は、温かくて美味しい自校調理方式学校給食を切望していたにも拘らず、「ハマ弁」なる冷たくて不味い羊頭狗肉な「給食改め窮食」巨大弁当工場を最南端の金沢区に総額700億

円も投じる建設計画追認の「ふたしかな与党」と化し、寧ろ当初は「親学」的発想で母親愛情弁当が推進の市会議員が、足立区や青屋市に象徴される作り手の相貌が見える「美味しい給食」を求め

る、ねじれ現象なヨコハマ。小生はホテルニューグランドで6月2日の横浜開港166周年記念日に横浜市長選挙（7月20日告示・8月3日投票）立候補表明会見を開催。『脱・お役所対応』宣言に基づくミッシヨン&アジェンダ20」詳説&質疑を3時間6分に亘って約150名の報道関係者・市民参加者に行いました。

「不透明な「横浜みどり税」を即時撤廃」。「閉ざされた市長公舎と本庁舎最上階を市民に全面開放」。

「脱・縦割り行政」で市長・副市長・局長・区長・部長・課長が電話対応の市政24時間目安箱「#8045」開設。『定年55歳「退職自衛官」を「学校と地域を護る職員」に積極採用。他自治体採用の退職教員と青年海外協力隊経験者を「セカンドキャリア」で積極採用』etc. 無論、『利権の巣窟だった山下ふ頭を、ハマっ子の森に大改造』も明記しています。

★次号8月号の発行日は8月1日(金)です。